

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |              |        |              |
|----------------|--------------|--------|--------------|
| ○事業所名          | リノ おひさまのたまご  |        |              |
| ○保護者評価実施期間     | 2025年 2月 18日 |        | 2025年 2月 28日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)       | (回答者数) |              |
| ○従業者評価実施期間     | 2025年 2月 18日 |        | 2025年 2月 28日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)       | (回答者数) |              |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 3月 30日 |        |              |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※) だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                                   | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                                                               | さらに充実を図るための取組等                                                                                                |
|---|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 生活空間が、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、こども達の活動に合わせた空間となっている。                           | コロナ感染が広まる前から、衛生面や環境については、利用児童の特性に配慮し、構造的かつ衛生的な環境で過ごせるよう、またその様な環境を子ども達が快適と感じられるよう、意識的に取り組んでいる。                       | 子ども達が過ごしやすい、安心・衛生・構造化された生活空間は、幼児期の発達段階の土台を形成する時期においては特に重要である。その生活空間を、子ども達自身が習慣的に維持出来るように、生活スキルが身に付くよう、支援していく。 |
| 2 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしている。                                        | ヒヤリハット報告書の記載は、自己申告や報告をもとに、出来るだけその時の状況を詳しく記載し、善後策をコメントし、共有しており、随時、情報を更新している。                                         | ヒヤリハットの共有は、特に重要と考えており、日々変化する利用児童の状態に合わせて、慢心することなく、注意深く利用児童の行動を観察し、適切な療育につながるよう、今後も継続して取り組む。                   |
| 3 | こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している。 | こどもや保護者からの相談や申し入れについては、児発管に集約し、担当者によって回答にばらつきや対応の違いが出ないよう、注意をしている。また、内容によっては、その日の担当者に判断を任せるが、その切り分けも、基本的には一元管理している。 | 担当する指導員によって、対応にばらつきが出てしまっては問題がある事と、そうでない事があるので、引き続き、相談や申し入れについては、引き続き児発管に集約し、事業所としての指針に沿った支援を行う。              |

|   | 事業所の弱み(※) だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                                 | 事業所として考えている課題の要因等                                        | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                            |
|---|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている。              | 多機能型の為、午前利用の未就学児と午後の利用児童の送迎があるため、支援員が揃う時間帯を確保する事が難しい。    | 指導員の気づきにつながるようなモデルを現場で提示できる取り組みや工夫を検討し、実践する。また、一人一人の支援のポイントを、適切なタイミングで児発管から現場に伝えられるような仕組みを検討する。 |
| 2 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。                       | 上記の理由により支援員が揃う機会を確保する事が難しいため、情報共有ボードを活用しているが、活用方法の検討が必要。 | 支援の振り返りと、次につながる支援方針を共有できる仕組みを引き続き検討する。                                                          |
| 3 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っている。 | 家族支援に関しては、全体に向けての情報発信や研修の機会は設けず、児発管がご家族と個別に直接対応している。     | 家族支援に関しては、ニーズが多岐にわたるので、どのような情報をどの様に提供していくのが適切か、検討する。                                            |